

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°26 ドメーヌ・ル・ブリゾー

生産地方：ロワール

新着ワイン3種類♪

VdF パタポン 2018 (白)

2018年は、徐々に収量に恵まれた当たり年！とは言っても、区画によって収量はまちまち。一番収量が多いのはブランドリエールの畑で35hl/ha。ブリゾーはミルデュの被害により13hl/haと少なく、単体で仕込むほどの収量に至らなかったため、前年同様にパタポンにアッサンブラージュされている。ちなみに、今回はブリゾーの比率が3割と前年よりも2割増しで超お得！酸が落ちる前に早めに収穫に取り掛かったおかげもあって、出来上がったワインはクリスタルのようなピュアさがあり、滋味深いミネラルと繊細な酸とのバランスも良く、ミネラルエキスを飲んでいるような優しさが何とも言えない！とりわけグラスに注いだ時の香りが華やかで、みかんの甘い果実の香りや白い花の爽やかな香りが鼻をくすぐる！魚介はもちろんシェーヴルチーズとも相性が抜群なワインだ！

VdF キャラクテール 2018 (白)

2年ぶりのキャラクテール！ワインは上品で透明感があり、ヴィエーユ・ヴィーニュの凝縮したエキスと滋味深いミネラルがしっかり感じられる、薄ウマながらもピュアなエキスが五臓六腑に染み入る卓越した味わいに仕上がっている！ナタリー自身2018年は収量に恵まれた当たり年と言っているが、実際、キャラクテールは樹齢が54年～59年とヴィエーユ・ヴィーニュの領域に入っていて収量も少なく、1ヘクタール当たりたったの22hLしか取れていない。彼女の方針では、今後もキャラクテールは収量が取れなくても植え替えはせずにヴィエーユ・ヴィーニュのまま続けていくとのことだから、もうすでに豊作の時にしかできないとても貴重なワインになりつつあるのかもしれない。

VdF ル・タン・デメ 2018 (赤)

今回初リリースするヴィエーユ・ヴィーニュのピノドニスからつくるタン・デメ！ブドウは樹齢100年を超すLes pies (レ・ピイ) と呼ばれる畑から。ワインは果実味の艶やかさとエレガントさ、そして、ヴィエーユ・ヴィーニュから来るキメの細かいタンニンがじわじわと染みわたるような、複雑で奥行きのある作りとなっている！ナタリー自身は以前からモルティエと双壁をなすトップキュヴェをこのLes piesのピノドニスで仕込みたいと思っていたが、霜や病気の被害に遭うことが多く、なかなか収量に恵まれないため、大抵はパタポンにアッサンブラージュされていた。だが、2018年は久しぶりにLes pies単体で収量が取れたので、今回新しくキュヴェを仕込むことを決めたそうだ！仕込み方法は、現在のパートナーであるエミール・エレディアがかつてドメーヌ・ド・モンリュエで仕込んだ同じく樹齢100年を超えるトップキュヴェ「Le verre des poètes (ル・ヴェール・デ・ポエツト)」と同じ方法を採用し、7ヶ月の超ロングマセラシオンで仕込んでいる！ちなみに、エミールの曾祖父は19世紀末にフランスで活躍したパルナシアン詩人のジョゼ・マリア・ド・エレディアで、Le verre des poètesは元々彼の曾祖父にちなんでつけられた、エミール・エレディアのワイン名。そのワインが大好きだったナタリーはオマージュとして、そのジョゼ・マリア・ド・エレディアの娘で小説家のマリー・ド・エレディアが1908年に執筆した小説Le temps d'aimerから今回ワイン名をつけている！今後も収量が取れた当たり年だけ仕込む予定。

◆VCN°27 ナナ・ヴァン

生産地方：ラングドック

新着ワイン 1 種類♪

VdF バブリー！2018（ロゼ泡）

2018 年は、ミルデューの被害によりサンソーが 70%減と収量的には散々だが、品質的にはナタリー自身が今までのバブリーの中で一番と謳うくらいの当たり年！今回は、泡立ちを滑らかにするため瓶熟に 18 ヶ月の期間をかけている。また、開けた時に澱の影響で泡が噴きこぼれないように 4℃に冷やした冷蔵コンテナで 1 ヶ月間しっかりと清澄処理をし、それからデゴルジュマンを行っている。彼女曰く、今回のバブリーは特に香りが華やかで、サンソーのフェノールがうまく熟成した時に出るフレッシュなフランボワーズの香りがチャームポイントとのこと！確かに、グラスに注いだ途端赤い果実の甘い香りが全開に弾けとてもアロマティック！アタックにまったりとしたエキスとビターなミネラルを感じ、滑らかなムースが優しく包み込む！残糖 1g/L 以下の完全辛口に仕上がっているのに、まるでフレッシュな赤い果実のエキスを口に含んでいるようなほのかな甘みがあり、滋味深い苦みとのバランスも良い！口にすればするほど食欲が増す最高のアペリティフだ！

ミレジム情報 当主ナタリー・ゴビシェールのコメント

2018 年のロワールは、徐々に収量に恵まれた当たり年だった！冬のスタートは暖冬で雨が多かった。春も雨が多く気温も比較的暖かかったので、ブドウの芽吹きは例年よりも早かった。天候が不安定で途中ミルデューが猛威を振るいブリゾーの畑に被害があったが、その他の畑はミルデューの問題なく開花を順調に終わらせることができた。また、2 年連続不作だった反動もあってか、いつもよりもブドウの房の数が多く、この時点で豊作が期待された。6 月中旬に入ると一転雨の降らない乾燥した天候が収穫終わりまで続いた。7 月の終わりから 8 月の中旬にかけて猛暑に見舞われたが、冬と春に降った雨のおかげでブドウは疲弊することなく順調に成長し、最終的に傷ひとつない完璧なブドウを収穫することができた。

一方、ラングドックはミルデューが猛威を振るった厳しい年だった。冬のスタートは暖冬で雨も多かった。4 月に入ると、気温が上がりブドウの成長に勢いが付いた。だが、5 月から 6 月上旬まで天候はとても不安定で、断続的に降り続いた雨の影響により、畑は高い湿気に覆われ、ミルデューが猛威を振るった。ロワールに畑を持つ我々自身ミルデューの対処は比較的慣れているつもりであったが、実際蔓延のスピードは予想を超えていて、ボルドー液の散布もほとんど効果がなかった。このミルデューの猛威により 60%~80%減収の被害に遭った。6 月中旬に入ると、雨は完全に止みミルデューの勢いも収束。夏は幸い猛暑もほとんどなく穏やかな天候が続き、また、冬と春に降った雨のストックのおかげでブドウは水不足もなく果汁をたっぷり含んだまま成熟を早めて行った。

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き

コロナの 3 月の外出禁止令解除以来久々の訪問♪今回はナタリーに会いにロワールへ向かった。ドメーヌに着くなり、一応相手への配慮のためマスク着用で訪問に臨んだ。実際ドメーヌにはナタリー以外に従業員を含め 5 人がカーヴの作業を行っていたが、予想通り誰一人マスクをして作業を行っていなかった。

フランスでは 6 月 2 日にほぼ完全解除となってからは、まるでコロナがなくなったかのように、街にはかつての活気が戻ってきている。また、フランス国内のワインやアルコールの需要も、禁止令の反動からか、うなぎ登りに回復しているようだ。まあ、ナタリーの行き来するロワールのサルトル県やラングドックのエロー県は元々感染者が総数で 40 人もいかに少ないし、彼女の仕事は密になることがほとんどないからあまりナーバスではないのかもしれない。

無事打ち合わせを終え、帰り際ナタリーから「今年はこのままのペースで行くと、ドメーヌ史上最も収量の多い年になるかもしれないくらいブドウがたわわに実っているから、ぜひ畑に立ち寄って！」とアドバイスをもらい、さっそく畑に向かった。



写真① 畑はきれいに整備されている

これはパタポン赤に使用されるシャベルの畑の写真。
(写真①) 外出禁止令が出ている間畑の仕事に集中できたのか、Rouleau Faca (ルーロー・ファッカ：雑草を刈る代わりにローラーで押しつぶす方法) もきれいにかけられている。パリセもしっかりされていて、一瞬見ただけでも仕事がちんとなされていることが良く伝わる。

これは開花が終えて 10 日ほどたったピノドニスのブドウの写真。(写真②) 今年は春の遅霜の被害もなく、例年よりも 2 週間ほど早いペースでブドウが成長しているようだ。それにしても今まで見たことのないくらいブドウの房が生っている！昨年は霜の被害もあり、ブドウを探すこと自体が困難だったのだが、今回は至る所に大きな房がぶら下がっている。病気も全くなく、ナタリーの言う通り大豊作に向かって健全に育って行っているようだ。



写真② 今年は大豊作が期待できる！



写真③ 効果てき面の鹿撃退剤！

ひとつ気づいた事として、昨年まで鹿やイノシシなどの害獣の被害を防ぐため、畑の周りに白い網を張っていたのだが、今回はその網が見当たらない…。確かナタリー自身も、ここ数年は病気よりも害獣の被害の方が深刻だと言っていたはずだが…今年ブドウを見ても動物に食べられた形跡が一切ない。ナタリーに真相を尋ねたところ、今年から特に鹿除去に効果のある、あるものを導入したとのこと。それがこの杭に括りつけられたピンクの物体だ！（写真③）この写真はブリゾーのシュナンの畑だが、確かに両端の杭をよく見ると、全ての畑に等間隔で付けられている。このピンクの入れ物は、鹿の嫌がる羊の脂をベースにした調剤が入った REPULSIF CHEVREUILS (レピュルシフ・シューヴレイユ：鹿撃退剤) と呼ばれるもので、これを畑の周りに括りつけるだけで、鹿の畑侵入を防ぐことができるようだ。しかも調剤の中身は全て自然の材料を基にしている。効果の方はてき面のようで、4月の萌芽前に備え付けたところ、雑木林に隣接しているブリゾーの畑でさえ芽がほとんど食べられていなかったとのこと。白い網を張っていた時でさえ、鹿は軽々と網を潜り抜け、あるいは網を壊して畑に侵入し、人間の手ではお手上げ状態だっただけに、この効果にはナタリー自身もただただ驚きとのこと！彼女が言うには、毎年害獣の被害で 3~4 割収量が落ちていたということだから、これからはもっと安定した収量が期待できるかもしれない！とにかく今年は質量共に大いに期待できそうだ！（2020.6.24.のドメーヌ突撃訪問より）

※弊社HP「フォト・ギャラリー」より、カラーでサイズの大きい鮮明な写真をぜひご覧くださいませ